

令和7年度第2回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

1 会議名	令和7年度第2回安曇野市文書館運営審議会
2 日時	令和7年12月11日 午前・ <input type="checkbox"/> 2時00分から午前・ <input type="checkbox"/> 3時30分まで
3 会場	安曇野市役所本庁舎3階 会議室305
4 出席者	唐木委員、村石委員、小宮山委員、瀬戸委員、宮澤委員
5 担当課出席者	洞部長、三澤課長、逸見係長、平沢文書館長、松澤主査
6 公開・非公開の別	公開
7 傍聴人	0人
8 会議概要作成年月日	令和7年12月18日

協議事項等

【協議事項】

- 1 令和7年度事業中間報告について
- 2 令和8年度事業方針について

【会議概要】

- 1 令和7年度事業中間報告について

事務局 ・資料1について説明。
委員 ・学校資料とは、教育部から移管された公文書という認識でよいか。また、その中には、例えば小学校では共同資料室で、高等学校でいうと社会科研究室で持っている立体物は含んでいないという理解でよいか。

事務局 ・そのとおりである。

委員 ・大庄屋山口家の資料について、約1万2000点と膨大な量の資料であるが、受入の経緯と整理状況について教えていただきたい。寄託を受け入れる段階で、すでに整理が終わっていたということでよいか。

事務局 ・大庄屋山口家の資料は、5年ほど前にお預かりして、地域資料調査員協力のもと約4年かけて整理を行った。整理完了後の令和7年度に寄託の手続きを行ったため、令和7年10月末時点の地域資料の受入点数が約1万4,000点、整理点数が約3,000点となっている。

委員 ・公文書の移管について、旧町村や外部書庫の文書がイレギュラーに入ってきているが、通常の移管点数となると何点ぐらいなのか。また、旧町村文書や外部書庫の移管が無ければ、移管点数がそれほどない部署について、現在の選別基準で判断する中では移管する文書がないということか。

事務局 ・現在のところ、通常の移管点数について正確な数字は出せないが、おそらく令和5年度の移管点数約1,500点が最も近いと考えている。また、移管点数がそれほどない部署もあるが、選別基準に則って判断している。

委員 ・今後、旧町村文書等の溜まっていたものが無くなってくると、毎年作るものに基づき合わせて移管するというように平準化してくると思う。そうすると次に見えてくるのが、今の基準の判断で移管すべき文書がきちんと来ているのかということが問題となってくると思う。(次ページに続く)

- | | |
|------------------------|--|
| 委員 | ・現在、移管点数の少ない部署もあるが、基準上に示した文書でないので単純に移管点数が少ないのか、それとも制度上改善するところがあつて、本来であれば移管となる文書が来ていないのか、今後確認していく必要がある。今すぐにではないが、次のステップとして考えてほしい。 |
| 委員 | ・文書館開館から8年ほどが経過し、市民にも文書館がどういうところか浸透してきたと思う。私も文書館講演会・講座に参加しており、どれも素晴らしいものだと思うが、参加者数が20人台くらいなので、さらに広報していく必要があるのではないか。また、学校連携について、出前講座を行った学校で行われたポスター・セッションを見ると、文書館で調べましたと子どもたちが書いたものがあつた。とても嬉しいことだし、文書館の広がりが見えたところかと思った。 |
| 事務局 | ・広報や集客については課題ととらえている。また、若年層や親世代の参加者を取り込めば参加者の幅が広がると思う。当館には設備がないので、オンラインでの参加者を募ることは難しいが、委員の皆さんからのアドバイスをいただきながら、発展できるようにしていきたいと思う。 |
| 2 令和8年度事業方針について | |
| 事務局 | ・資料2について説明。 |
| 委員 | ・明科地域の古文書調査の進捗状況と所有者の感触について。 |
| 事務局 | ・現状は、明科町史等で使用した文書群のリストを作っている段階で、所有者に連絡はまだ取っていない。そのため、古文書の所在についてわからないことが多いが、この調査とは別の相談で資料が散逸していることがわかったものもある。 |
| 委員 | ・文化財保存活用地域計画があると思うが、そういったところとも共有して進めなければ、今後の県全体の動きの中に資するものがあるかなと思う。 |
| 委員 | ・電子公文書への対応について、文書館で受け入れるシステムを作るのか、それとも作成から保存・移管までの機能を含めたシステムなのか、他の自治体でも様々なタイプがあるが安曇野市の場合はどうなのか。 |
| 事務局 | ・移管までの機能はなく、現用文書の作成・管理までのシステムであると担当部署からは聞いている。そのため、電子公文書の受け入れについては、現在の文書館のシステムで対応できるのか、新たにシステムを構築する必要があるのか、検討していく必要がある。 |
| 委員 | ・どういう形式のもので、どう運んでくるのか、そういったデジタル特有の部分も含めて検討する必要がある。標準形式で文書を作ってくれといつても、WordやExcelのまま移管されてきてエラーが出る場合もある。また、ロックがかかっていて、パスキーがないと開かないものもある。こういった問題も出てくるので、そういったことも含めて検討していただきたい。 |
| 委員 | ・私も文書館の講座等にいくつか参加させていただいたが、文書館が持っている一次資料を基にした講座で、バックボーンを持ちながらの話で大変心強く思った。今後もそのところを大事にしてもらえたならありがたい。また、今年、来年と子ども向けの講座を実施・計画しているが、安曇野市を背負っていく子供たちに少しづつでもそういう種をまいて、そしてその種が育つていけばいいなと思う。今年の参加者は少なかったが、子ども向けの講座をぜひ発展させていただき、市誌編さんと併せてご検討いただきたい。 |